

北海道浮魚ニュース

平成23(2011)年度15号

2011年 8月 31日

道総研 函館水試

ホームページ : http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

スルメイカ漁場一斉調査結果(道南太平洋海域)

道南太平洋の8月下旬のスルメイカ分布密度は昨年を上回ったが過去5年との比較では低かった。魚体サイズのモードは昨年及び過去5年平均より大きいが小型の個体も混じる。

函館水試調査船金星丸及び釧路水試調査船北辰丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：8月17日～20日(北辰丸)、8月25日～26日(金星丸)
- ・調査海域：浦河沖～下北半島東沖(北辰丸)、函館沖(金星丸)

昨年(2010年8月19日～25日)及び過去5年(2006～2010年)のデータと比較しました。

1. 水温分布(図1、2)

漁獲調査点4地点の表面水温は21.4～25.9(昨年19.5～24.9)で、木直沖St.1と函館沖St.16で昨年を上回り、下北半島東沖St.8と浦河沖St.15で昨を下回りました。水深50mの水温は9.2～17.1

(昨年6.9～21.0)で、木直沖St.1と浦河沖St.15で昨年を上回り、下北半島東沖St.8と函館沖St.16で昨を下回りました。海洋観測の結果では、渡島太平洋側から胆振・日高沖にかけて、表面水温は昨年より低く、水深50mの水温は昨年より高い傾向が見られました。

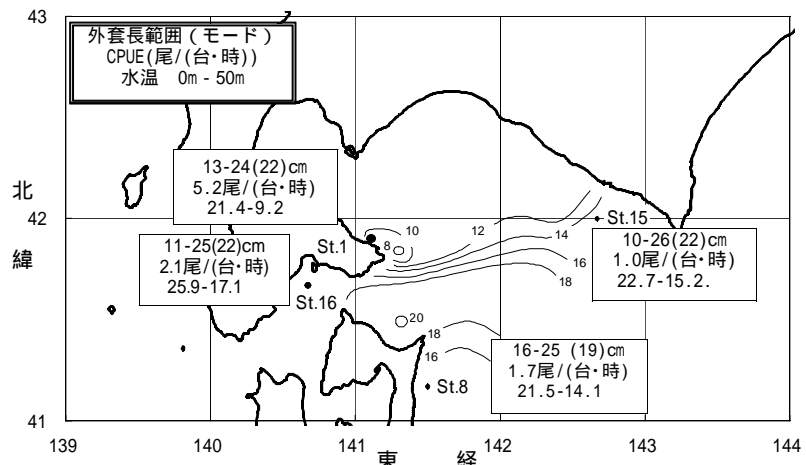


図1 2011年度の漁獲調査結果と水温(8月17～26日、北辰丸・金星丸)は漁獲調査点を示し面積はCPUEに比例。等温線は50m水深の水温分布

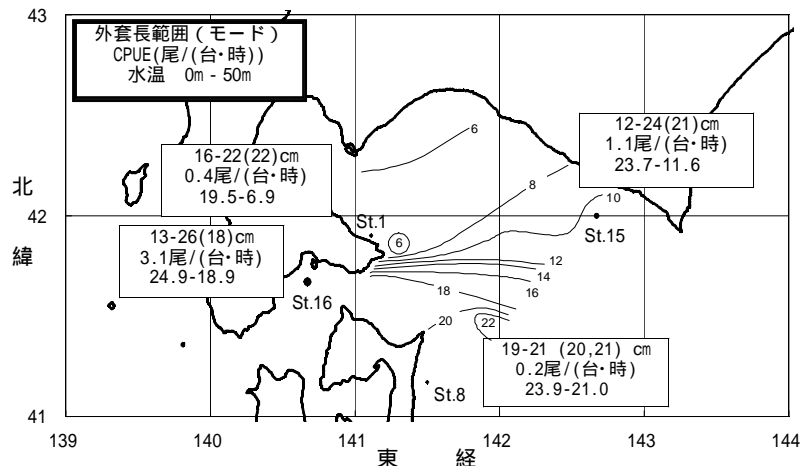


図2 2010年度の漁獲調査結果と水温(8月19～25日、北辰丸・金星丸)は漁獲調査点を示し面積はCPUEに比例。等温線は50m水深の水温分布

表 1 スルメイカ漁場一斉調査（道南太平洋 8 月）の CPUE と外套長の経年変化

	2006(H18) 8/21-8/25	2007(H19) 8/20-8/24	2008(H20) 8/18-8/22	2009(H21) 8/17-8/20	2010(H22) 8/19-8/25	2011(H23) 8/17-8/26
St.1(木直沖)CPUE	4.7	-	0.8	10.3	0.4	5.2
St.8(下北半島東沖)CPUE	1.5	6.6	-	7.8	0.2	1.7
St.15(浦河沖)CPUE	2.6	-	30.7	91.3	1.1	1.0
St.16(函館沖)CPUE	4.6	1.7	-	-	3.1	2.1
平均CPUE (尾/(台・時))	3.4	4.2	15.8	36.5	1.2	2.5
外套長の範囲(cm)	12-26	16-29	15-23	9-26	12-26	10-26
外套長モードの範囲(cm)	20-21	21	19-20	20-22	18-22	19-22

2 . 分布密度

漁獲調査点 4 地点の CPUE（2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数）の平均は 2.5 で昨年（1.2）を上回りましたが、2006 年以降では 2 番目に低い値でした。最も分布密度が高かったのは木直沖 St.1 でした。（図 1、表 1）。

3 . スルメイカの大きさ

スルメイカの外套長は、調査点全体で 10～26cm（昨年 12～26cm）の範囲にありました（図 1、3、表 1）。調査海域全体の外套長のモード（最も多く漁獲されたイカの大きさ）は 22cm（昨年 18cm、過去 5 年平均 20cm）でした。モードは昨年及び過去 5 年平均に比べ大きくなっていましたが、サイズのばらつきが大きく、15cm 未満の小型の個体の割合は過去 5 年平均より高くなっていました。（図 3）。

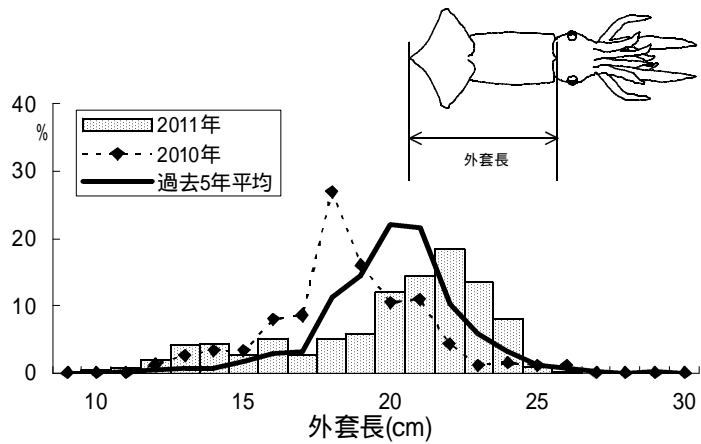


図 3 海域全体の外套長組成

（文責：函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-57-6056 直通、FAX：0138-57-5991）